

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十二度 入選句 (投稿総数三千六百六句・小中学投句数二千八百五十句)

特選

選者 白井 静子

毎日の努力のごとく雪積もる 大垣市 川地 悠翔(中三)

雪が降り積もっていく様子は、目で見る事ができます。でも、努力は目で見ることはできません。テストの点が良かったとか、試合に勝ったとかという形では、「見える」と言えるでしょうが、毎日の努力は、見えないことの方が多いものです。

見えない努力だけれども、雪が積もっていくように、心の中にしっかりと積み重なっているのだと、作者は言っているのです。努力は無駄ではないという思いがよく伝わります。

きらきらと新米ごはん光ってる 美濃加茂市 宮本 彩華(中二)

お米の冷蔵保存の技術が進んで、いつでもおいしいご飯を食べることができます。作者も、毎日おいしいご飯をいただいているのでしょう。

しかし、今日のご飯はちよつと違います。きらきらと光っているのです。それは、「新米」だからです。新米は、その時期だけしか味わうことができます。食べ物が豊かになった現代ですが、本当においしい物に出会った感動を素直に表現したよい句です。

ゆきだるまぼたんはあとでつけようね 大垣市 ふじわら ゆら(小一)

ゆきだるまをつくるのは、とてもたのしいですね。大きいゆき玉の上に、小さいゆき玉をのせ、目や口をつけます。ぼうしをかぶせたり、木のえだの手をつけたりしてできあがり。そうだ、はなもわすれずにつけなくてはいけません。それから、ぶくのぼたんも。

「ぼたんはおうちの人もらわなくちゃ。ちよつとまつてね。」
という、作者のやさしさが伝わります。

秀逸

ねこじやらしねこのしつぽににているよ 大垣市 坂 侑里子(小四)

秋の空 一点見つめる芭蕉像 大垣市 西川 雄貴(小六)

ザクザクと霜柱ふむ通学路 美濃加茂市 河江 陽南乃(中二)

雪だるま笑顔のまま溶けてった 美濃加茂市 長谷川 侑香(中二)

流れ星空から祖父が元氣かい 大垣市 桐山 真奈(小六)

散歩中愛犬かざるひつつき虫 大垣市 水野 輝良梨(小六)

秋の空天の果てまで見えてるよ 大垣市 安田 一平(小六)

もやい船おち葉とともに波にゆれ 大垣市 子安 保乃花(小六)

ニュースにはきょうもあしたもさぶくなる 大垣市 伊藤 綾汰(小四)

ねこがいるこたつでねてるまるまって 大垣市 みや森 あや羽(小二)

入選

コスモスがゆらゆらゆらと空見てる	大垣市	清水	彩由実(小五)
夕ごはんと成りの家もさんま焼く	大垣市	杉山	琴音(小六)
はくいきがほわつと白い寒い朝	大垣市	よし川	みゆ(小三)
芭蕉さん私と秋を感じてる	大垣市	國枝	日菜子(小六)
秋風におされゆらゆらもやい船	大垣市	白井	倭菜(小六)
冬の朝「おはよう」はく息白くなる	美濃加茂市	柘植	咲奈(中二)
寒い夜いっそう輝く大三角	美濃加茂市	藤吉	楓(中二)
秋刀魚焼く香りが近所とごあいさつ	大垣市	井戸	菜(小六)
赤蜻蛉この指とまれ指を出す	大垣市	杉浦	あづみ(小六)
運動会風も応えん力出る	大垣市	國枝	小想(小六)

入選

もやい舟紅葉のシャワーをあびている	大垣市	柴原	結菜(小六)
もやい船おち葉の流れをじつと見る	大垣市	宮崎	憲伸(小六)
秋の日は住吉橋を照らしてる	大垣市	松井	茉奈佳(小六)
冬の朝今日はいいことありそう	大垣市	中村	永遠(小四)
じきゅうそうさいこのちからふりしぼる	大垣市	生駒	七夢(小二)
池の中魚のこして池氷る	大垣市	傍島	倫(小四)
冬だけのみんなの友だち雪だるま	大垣市	川地	亜依佳(小四)
かんすずめエサをもとめてにわにくる	大垣市	高木	康作(小四)
やきいもを食べたら心があつたまる	大垣市	関谷	泉吹(小四)
福笑い何回やっても大笑い	大垣市	近藤	日和(小四)

選者吟

伊吹嶺は今日も静かに冬めく日

静

子